

死は滅びではなく

マリノ E. デハクト Jr.

私たち誰にとっても家族、友人がこの世を去ることはどんなに悲しいことでしょう。特に長い間一緒に働いていた人たちなら、なおさらです。その人たちの声が聞こえなくなること、姿が見えなくなことは寂しいことです。しかし、この世の出来事は悲しいことであっても必ず理由があるので神様のみ旨を信頼して受け入れることが大切です。そして私たちの存在は死によって終わることではないので、希望を持ってすべてを神様に委ねましょう。知恵書では「神が死を造られたのではなく、命あるものの滅びを喜ばれるわけでもない。」さらに聖パウロによれば罪が支払う報酬は死です。つまり死が罪の結果なのです。人間にとって一番恐ろしいことは死ぬことだと考えられます。しかしイエス様を信じる者にとっては、そうではありません。ご存じのようにイエス様は受難と復活によって死を滅ぼしました。したがって私たちにとって身体の死は人間の存在の終わりではなく、真の命の始まりなのです。マルクの福音書の第5章ではイエス様は三つ奇跡を行われましたが二番目と三番目の奇跡は会堂長の娘を生き返らせたことと、長い間病気で苦しんでいた女をいやされたことです。この出来事によってイエス様には生命に対する権威があることが示されました。この女の病気はひどくて死期が近づいていたことが分かります。しかし彼女はイエス様の教えを聞き、主の服に触れるだけでも癒されると信じ、触れた途端に元気になりました。会堂長の娘の場合は、イエス様が家に到着する前には幼い娘は既に亡くなっていたと人々が言いました。イエス様は彼に「恐れることはない。ただ信じなさい」と言われました。娘は死んだのではなくて、ただ眠っているだけだからです。イエス様を信じていない人々にとっては、この子は本当に死んでいました。しかし、この奇跡によってイエス様は体を復活させることと命を再び与えることができることを明らかにしました。私たちにとって「本当の死」は神様の恵みから離れることです。教会の教えには大罪を犯すと魂はこの状態になってしまいます。この状態にならないように信仰生活を大切にすべきです。大罪を犯さなくても良心をきれいにするために、小さな誤りを犯しても許しの秘跡が必要です。どんな小さな罪であっても、それを重ねることで大罪になるからです。ヨハネの手紙第1章8節にこう書かれています。「自分に罪がないというなら、自らを欺いており、真理は私たちのうちありません。」この言葉を私たちの心に留めれば、悔い改めやすくなるでしょう。そうすれば私たちはこの世を去る時、死んだ者ではなく、ただ眠っている者になります。イエス様はこの眠りから私たちを起き上がらせてくださるので

